

科学的社會認識を育てる授業研究

I 主題設定の理由

社会科で指導する内容は、社会認識である。それを科学的に考えていくところに科学的社会認識がある。その過程においては、事実認識・関係認識・主体認識がある。それぞれにどのような資料を使い、どのような手だてをとっていくかが大切である。この認識力を養うことが社会科のねらいの一つである。

基礎・基本が習得され、ある単元で学んだことと身につけた認識力が他の単元にも応用できること。このことこそが科学的社会認識を身に付けたということではないだろうか。

II 研究の内容

1 小学校部会

科学的社会認識を育てる授業研究を支える観点として「楽しい社会科授業の創造」「習得型の社会科授業」「資料をいかした社会科授業」「活用型・探究型の社会科授業」の4点をもうけた。実践をもとにした研究を進めるために、研究授業における事実をもとに研究をすすめる。それとともに、各部員が自分の実践を持ち寄り報告することで日々の実践につながられるようにした。

(1) 授業実践研究（塩山南小）

「県内の伝統工芸と富士川ぞいの地域について」 4年 菱澤 里美教諭

(2) 実践・情報報告

(3) 臨地研修 近代産業遺産「宮光園」、勝沼ぶどう文化館

2 中学校部会

「科学的社会認識」を事実認識、関係の認識、主体認識として捉えている。社会事象は決して偶然なものではなく、時に人間が、国家が、政府が、或いは自然が原因あって事象をつくり出しているものである。それを子どもたちに、データや資料を提供しながら考えさせていく。それが、科学的社会認識を育てていくことの中核であると考える。部会として、「身近な資料を生かした授業研究」をサブテーマに設定し、生徒がいきいきと科学的社会認識を習得できる授業作りを目指している。

(1) 科学的社会認識を育てる手だてについて、理論研究を深める。

(2) 臨地研修と学習会を行うことにより、地域の資料の教材化を図る。

ア 山梨県立博物館（笛吹市）

イ 浅川伯教・巧兄弟資料館、谷戸城ふるさと歴史館、金生遺跡（北杜市）

ウ 春日居郷土館・小川正子記念館（笛吹市）

エ 梅本澄雄先生による学習会

(3) 授業実践研究（笛川中）

地理的分野（1年） 「身近な地域を調べよう」

加賀美要次教諭

Ⅲ 成果と課題

1 小学校部会

- (1) 4年生の社会「県内の伝統工芸と富士川ぞいの地域」の研究授業が、組織的な取り組みにおいて実施できた。
- (2) 地域教材選択に加え、電子黒板やデジタルカメラなどの機器を使用した授業展開は、子どもの興味・関心を喚起し持続につながった。
- (3) 臨地研修で、ぶどう作り、ワイン造りの歴史を学ぶことができ、資料保存が大切なことを実感できて良かった。
- (4) サブテーマで授業の型を、便宜上、習得型と活用力型、探究型に分けていた。しかし新学習指導要領の主旨でもある習得と活用力の育成、PISA型・読解力の育成を図り、確かな学力、生きる力を育むためには、一つの授業を習得から活用、探究とつなげて考え、授業の視点を活用、探究に向けていってはどうか。
- (5) 実際現地に行って集めた資料（写真）などは、子どもの学習意欲を高めること、体験的学習を入れたり、身近な物から学習を進めることが興味関心を高める中で学習の目標にせまることができることが学習しあえた。
- (6) 新しい学習指導要領の考え方、移行措置に備えた教育課程の作り方、やらなければならないことを学ぶことができた。

2 中学校部会

- (1) 各先生方の実践報告が、とても勉強になり、参考になった。授業で生かせるものがあり、とても役立った。
- (2) 加賀美先生の「身近な地域を調べよう」の授業は、生徒主体で、子ども達の多様な見方を知ることの出来た貴重な授業であった。
- (3) 山梨県立博物館、浅川資料館、谷戸城ふるさと歴史館、金生遺跡、春日居郷土館での臨地研修、考古博物館と埋蔵文化財センターの方による事業内容の紹介、梅本澄雄先生による学習会、末利光館長のお話は大変参考になった。
- (4) 各先生方が、日常の身近な資料を工夫して、科学的社会認識を育てる授業を実践していた。やはり、授業研究は先生方の実力のUPに充分役立っていると思う。
- (5) 宮本校長先生から「科学的社会認識を育てる授業研究」についての、貴重な講義をしていただき、理論研究が出来て良かった。
- (6) 授業で実際に使用している教材・教具・プリントを持ち寄る研究日を設けていきたい。
- (7) 臨地研修で集めた資料をもとにして、共同授業案を作ってみたらどうか。
- (8) 博学連携・外部講師の活用方法について、これからも研究を深めたらどうか。
- (9) 小学校との連携を考えていくことも必要か。
- (10) 教育課程の作成について、来年度は、今年度のこともふまえて取り組む必要があるのではないか。

(小学校部長 那須 栄樹 井尻小)

(中学校部長 武井 晴彦 笛川中)